



◀大きなのがとれたよ!

パパママ先生と、少し緊張しながら包丁でザクザク。▶



玉ねぎ甘いね! ▼



▲畑しごとって楽しいね。



「おかわりください!」ずらりと行列▶



6月は 食育月間

自分で育てた野菜を 自分で食べる、その楽しさから

高取幼稚園の野菜づくり



▲内藤た系子園長

「おいしーい。」「甘くてやわらかいね。」「先生、おかわりしたい?」「玉ねぎのおみそ汁を食べながら、子どもたちが口々に感想を話しあっています。これは、高取幼稚園の「玉ねぎクッキング」(5月12日)でのひとコマ。

高取幼稚園では、裏の家の方から畑を借り、園児たちが玉ねぎやさつまいろなどを育てています。この日は、「パパママ先生」である保護者のサポートも得ながら、収穫した玉ねぎを使っておみそ汁づくりにチャレンジしていました。

内藤た系子園長は「自分で育てて食べるということ自体が、今の時代では得がたい体験になっています。うちの園では、4歳児の11月に玉ねぎを植え、5歳児クラスに進級した5月に収穫し調理して食べるというひとつながりの実践をします。自分で植えた記憶があるからこそ、おいしさも格別のようで、普段よりおなかに入っていくみたいです(笑)。「食育」って、こんなふうに身近にあって、特別に身構えなくてもいいんだ、とも思っています。」と話してくれました。

また実は、この玉ねぎやさつまいろも、近所の人の協力があってこそ作れるんですよ。畑を貸してくれたり、育て方を教えてくれたり。料理の時は保護者の方が手伝って。高取の子は、地域の中で育ててもらっているなと実感しています。」とも。畑の持ち主のおばあちゃんは、体調を少し悪くしていたそうですが、子どもたちの畑づくりのようすを見ているうちに、もとの元気が戻ってきたとのこと。

そして、パパママ先生として参加したお母さんたちも、おかわりに行列をつくる子どもたちを見て「家ではおみそ汁に目を輝かせることなんてないのに。」と驚きながら「包丁で野菜を切らせて、とか、お手伝いがしたいと言われても、時間がかかるからとあまりやらせなかったのがなかったんですが、この姿を見たら家でも試してみようかなと思いました。」と笑顔で心境の変化を話してくれました。

「自分で育てて食べる」高取の子どもたちの楽しむ「食育」活動が、大人たちにもすてきな影響を与えています。